

5月12日児島高德昂墓前祭開催

すばらしい快晴の中 坂越浦史跡保存会の有志により
おごそかに墓前祭が行われた。



児島高德昂は1300年代の南北朝時代に南朝の後醍醐天皇側に付き、苦戦をしいられたが、隠岐の島へ流浪が決まった時でも、なんとか天皇を取り戻し再興しようとした忠信の祖として、戦中に多くの人々の心の糧となった。そのため戦後、近代教育の中から消えていった。しかし南北朝時代の歴史書として「太平記」が貴重視され、脚光を浴びることとなり児島高德昂の即席が見直されている。ここ坂越と非常に関わりが深い高德昂の栄誉を讃辞、歴史を振り返ることにより、現在の問題の糸口を探していけたらと考えます。「温故知新」